



病院NEWS

no. 349
2013
07/01



The Hospital News, Faculty of Medicine Kagawa University



ささえる、つながる、リードする。
香川大学医学部附属病院
KAGAWA UNIVERSITY HOSPITAL

香川県木田郡三木町池戸1750-1 発行人/病院長 千田 彰一

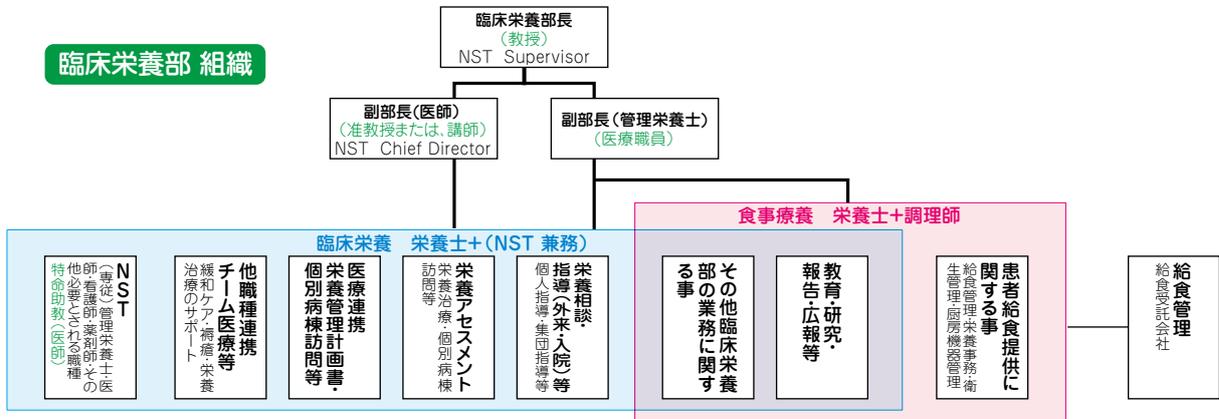
臨床栄養部の設置について

臨床栄養部 部長 正木 勉

近年、医療の質や安全、高度化、複雑化に伴う業務増大に対応するため、チーム医療が厚生労働省主導で進められ、管理栄養士も従来の食事管理、栄養指導に加え、独立した部門としてチームに参画し、患者さんの状況に即した栄養管理が求められるようになりました。また、栄養部門は、診療部門としての位置付けが望ましいと言われており、国立大学病院の栄養管理部門の大半は、事務部から独立し臨床栄養管理を円滑に行うことができる組織へと変更されています。このたび、事務部門にあった栄養管理室を独立させ、名称も臨床栄養部に変更しました。大きな変更点としましては、栄養サポートチーム(NST: Nutrition Support Team)を組織の中に置き、他職種連携がスムーズに行える組織へと職員配置(兼務)を行いました。NSTは、Chief Director 准教授(副部長)井町仁美医師を中心に、Director(専任医師)西山 典子、河上 和代の2名の医師が特命助教として配属されました。

臨床栄養部では、疾病治療のための食事療養及び栄養指導を行い、加えて臨床栄養管理を行うことにより、臨床栄養に関連した教育・研究の拠点として、病院機能の向上を図ってまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

臨床栄養部 組織



『都道府県がん診療連携拠点病院シリーズ』第1回 がん診療相談支援室

中核病院機能強化支援室

がん診療拠点病院は、平成18年に施行された「がん対策基本法」に基づき、全国どこでも質の高いがん医療を提供できるよう、がん医療の均てん化を目標に整備されました。平成21年2月には「都道府県がん診療連携拠点病院」として本院が指定されております

この拠点病院の重要な業務の一つに相談支援業務があります。腫瘍センターにがん診療相談支援室を整備し、相談窓口を平成23年4月18日に装いも新たに、病院玄関横にリニューアル開設しました。現在、国立がん研究センターの企画する相談員基礎研修を受講した相談員のうち4名(ソーシャルワーカー(以下MSW)、臨床心理士、看護師2名)が窓口対応を行っています。開設当初は、退院後の療養や転院調整、在宅での療養をサポートする体制の確保(介護、往診や訪問看護)の調整をはじめ医療費や生活費、介護保険や身体障害者手帳など社会福祉に関するMSWへの相談が中心でした。平成24年4月より専従の看護師(がん看護専門看護師)も加わり、相談内容が「がん」の治療や検査について理解の程度を確認することや症状、副作用の対応に関すること(全体の45%程度)、また、医療者、家族間の関係に対する相談(全体の20%程度)にも取り組んでいます。治療継続、療養先の変更、病状に対する葛藤や不安を表出される相談者もあり、一件あたりの対応時間が90分を超える相談も多くありますが、臨床心理士を中心に相談員間で情報共有し相談にあたっています。

また、大学病院の特性上、院外ならびに県外からの問い合わせや相談も多く(40%)、一般的なセカンドオピニオンに関することから、希望する病院へ連絡方法などの問い合わせもあり、状況に応じて、地域連携室と協働し取り組んでいます。

さらに、患者、家族の語らいの場としてがん患者サロンを2ヶ月毎に開催。今後、2か月毎のがん患者サロン以外に就労対策に関する対応や小児向けの集まりの検討、患者、家族がより自由に集える場の提供を企画、検討しています。また、健康な時からがん情報、がん相談の場があることを知って頂くために地域の図書館と連携し医療コーナーへの資料の提供を実施しています。今後、「がん」の情報発信をさらに推進する予定です。

がんに関するあらゆる相談、がん治療継続による医療費や生活費の問題から「がん」に罹患したことで抱える問題まで解決していただけるように取り組んでいますので、遠慮なさらずにご利用ください。無料です。また地域の医療機関からの相談にも対応します。

がん診療相談支援室は がん相談支援センターに名称変更予定です。

がんに関するご相談のことなら

がん診療連携拠点病院

がんに関する相談について患者さんやご家族のほか、どなたでも無料でご利用できる窓口です。上記の病院で診察を受けていない方もご利用できます。

- 香川大学医学部附属病院 がん診療相談支援室 ☎087-891-2473(直通)
- 香川県立中央病院 がん相談支援センター(地域連携室内) ☎087-835-2222(内線317)
- 高松赤十字病院 がん相談支援センター ☎087-831-7101(内線1171)
- 香川労災病院 医療・看護相談支援センター ☎0877-23-3111(内線3100)
- 三豊総合病院 がん相談支援センター ☎0875-52-3366(内線1170)



[病理医ってなあに？]

病理医は、外科医や内視鏡医などの特定の医師とは接する機会があっても、病理組織を提出する機会の少ない医師や開業医の先生方と接する機会はほぼ皆無です。患者さんと直接対面する機会も少ないため、市民のみならずには存在自体知られていないかもしれません。

病理診断科・病理部は病理診断をするところです。香川大学医学部附属病院 病理診断科・病理部には現在、病理医11名、臨床検査技師7名、事務1名が従事しています。病理診断とはなんでしょう。組織や細胞の採取は、外科医や内科医・産婦人科医などの臨床医が行いますが、患者さんの体から採取された組織を標本にして、顕微鏡で観察し、正常か異常かを判断をしているのが病理医です。皆様と直接お会いすることはないかもしれませんが、実は近くにいるのです。

[病理医の役割]

病理部門の業務内容は大きく次の5つがあります。①細胞診断、②生検組織診断、③手術で摘出された臓器・組織の診断、④手術中の迅速診断、⑤病理解剖です。それぞれの内容を少しずつお話します。もっと詳しいことが知りたい方は、日本病理学会ホームページをご覧ください(URL: <http://pathology.or.jp/>)

細胞診断 肺癌や膀胱癌では、痰や尿の中にかん細胞が混じることがあります。痰や尿を顕微鏡で調べてがん細胞の有無を判断するのが細胞診断です。子宮がん検診では、子宮頸部から細胞をこすり取って細胞を観察し、甲状腺や乳房などの病変は細い針を刺して吸引して調べます。

生検組織診断 胃・大腸や肺の内視鏡検査を行う際に「検査しておきますね」といわれて採取される組織が代表ですが、他にも、皮膚生検やリンパ節生検、骨髄生検など、病変の一部を切り取って採取される小さな組織は病理診断科で診断されます。

手術で摘出された臓器・組織の診断 摘出された臓器や組織は、病理医が肉眼で病変の部位、大きさ、性状、広がりを確認し、診断に必要な部分を切り出します。標本を顕微鏡で観察し、病変がどの程度進行しているのか、手術でとりきれているのか、追加治療が必要かどうか、癌の悪性度はどうか、転移の有無などを詳細に調べ、手術後の治療方針に役立つ情報を臨床医に報告します。

手術中の迅速診断 手術前に診断できない病変などに関して、手術中に病変の良悪の確認、癌の転移や広がりなどを調べるため、凍結標本を作製して、約10分で診断し、執刀医に電話で報告します。手術中の短時間に病理診断を下し、手術方針を決めるのに役立っています。

病理解剖 ご遺族の承諾をもとに、病死された患者さんのご遺体を解剖させていただくのが病理解剖です。生前の診断や治療が適切だったかどうか、肉眼的・組織学的に検証し、診療水準の向上と医学の進歩に役立っています。病理解剖を行った症例はCPC(臨床病理検討会)を行い、診断と治療、死因などに関して深く検証します。学生や研修医にとっても必須の教育現場です。

[臨床医との連携]

適切な病理診断を行うためには臨床情報が重要です。病理医は必要に応じて臨床医と病理診断について話し合い、臨床医が患者さんに病理学的な説明が十分できるように情報を提供しています。患者さんの診断と治療のために放射線科を含む臨床各科と病理医が症例について定期的に合同カンファレンスを行い集学的な検討も行っています。

[難解症例の検討]

診断困難な症例は、臓器別専門の病理医に標本を送ってアドバイスをいただくこともあります。全国の臓器別専門の病理医とも広くネットワークがあり、常に客観性のある診断を心がけています。

[地域医療との関わり]

病院に病理医がいることは良質な医療を提供することにつながりますが、病理医不足の現状も影響し、常勤の病理医がいる病院は少ないのが現状です。そこで多くの患者さんが同じレベルの医療を受けられるように大学以外の一般病院でも術中迅速診断や生検、手術材料の診断を行っています。中核病院での病理解剖やCPC、腎生検なども行い、香川腎臓カンファレンスでは香川県内の医師を対象としたオープンカンファレンスを開催しています。

[最後に]

病理診断科・病理部がどのようなところか、そして病理医がどのようなことに注意して診断をしているか、その一端を感じていただくことができたでしょうか。アメリカの哲学者ロールズのいう「重なり合う合意」とでもいましょうか、多くの病理医と臨床医が納得し、患者さんにとって適正な治療が行われる根拠となる診断を行うところ、それが病理診断科・病理部なのです。あるときは夏のおむすび山の、またあるときは冬の北アルプスの登坂ルートを標した詳しい地形図を、病理医として臨床医に提供する、そして、患者さん一人ひとりが最善の医療を受けられることを常に考え、毎日の仕事に臨んでいます。



風疹は風疹ウイルスによる感染症で、微熱・頭痛・倦怠感などの初発症状に引き続いて、全身に広がる発疹と頭頸部のリンパ節腫脹をきたしますが、通常生命に関わるような重篤な病気ではありません。しかし、妊娠中に風疹感染をおこした場合、赤ちゃんに先天性風疹症候群という心奇形や難聴、白内障などの様々な異常をきたす可能性があるため、妊婦さんでは注意が必要となります。特に妊娠初期の感染では非常に危険性が高く50%以上にみられ、妊娠4ヶ月(妊娠13週～16週)の感染でも約10%に起こるとされています。(妊娠20週以降ではほとんど発生しません)

昨年より首都圏および関西で風疹が流行し、今年に入って全国に拡大している事が報告されました。先天性風疹症候群の発生数は、風疹の流行に一致しており、2007年～2011年の5年間には国外で感染した2例を含めて3例しか報告されていませんでしたが、2012年には5例、2013年は3月までに3例の報告が確認されています。

先天性風疹症候群に対する有効な治療はなく、予防が最も大事となります。最も有効な予防方法は風疹ワクチンの予防接種です。現在34歳以上の女性については、中学校で集団接種を受けた人が多く、問題となる事は少ないのですが、33歳以下の女性は学校での集団接種がなくなり、風疹ワクチンの接種率が低下したため抗体を持っている人が少なくなりました。この病気は一度かかったら抗体ができるため、2度目の感染はあまり起こらないとされていますが、自然感染やワクチンを接種しても、抗体産生が不十分な場合や抗体価が低下する事もあり、注意を要します。

これから妊娠を考えられている女性で、風疹にかかったかどうかあいまいであり、風疹ワクチン接種を行っていない場合には、早めに接種しておく事をお勧めします。また風疹ワクチンは妊娠中の接種ができませんので、妊娠の初期に行う検査で、風疹抗体価が陰性もしくは低い場合には、妊娠初期に極力人込みを避けるなどの対応を行います。この様な場合には、分娩後に赤ちゃんが小児科で風疹ワクチンの接種を受ける時、お母さんも一緒にワクチン接種を受けた方が良いでしょう。

毎日新聞「四国健康ナビ」 6/5(水)掲載

全国国立大学臨床検査技師会総会開催

検査部 梶川 達志



平成25年5月16日(木)・17日(金)に、香川大学が担当して、第51回全国国立大学臨床検査技師会総会および第13回全国国立大学病院臨床検査技師長会が、リーガホテルゼスト高松を会場として開催されました。千田病院長には、開会の挨拶を賜りました。特別講演では、文部科学省大学病院支援室の竹本病院第一係長に「大学病院を取り巻く諸課題について」、村尾検査部長に「生活習慣病とHDL代謝」と題するご講演をいただきました。

技師長会では、「ISO15189の取得状況に関して」、「診療支援部・技術部の動向について」の報告のあと、「国立大学病院に勤務する臨床検査技師としての卒後教育」、「技師の評価、昇格の基準について」、「臨地実習教育について」など、国立大学病院検査部に勤務する臨床検査技師が抱える問題について、活発に討論が行われました。

総会では、地区研修会、国公立大学病院臨床検査技術者研修会、国立大学臨床検査技師会50周年記念研修会などの報告・協議に加え、「震災対応」に関する話題提供がありました。

東北大学の「災害対応総合臨床検査システム」では、リスク分散のため、新検査棟とは別棟に緊急検査室が新たに設置されます。揺れについては装置等を固定、電気は無停電電源装置、給水は純水製造装置の予備タンク設置などの対策がとられます。緊急検査室の装置には、免震装置が導入されます。東日本大震災の際には、精密機器である多くの検査機器が、揺れのために動かなくなっています。これらは、本院での震災対応策に大いに参考になる報告でした。天候にも恵まれ、無事閉会することができました。

平成25年春の叙勲受章について

総務課



平成25年春の叙勲(4月29日付け)において、元本院看護部副看護部長の「森本加代子」氏が、保健衛生功労者として瑞宝単光章を受章されました。

これは、同氏の看護業務への長年の尽力が評価されたものです。この受章を受けて、5月30日(木)に、千田病院院長及び阪井看護部長に受章報告がありました。

臨床研究に関するご案内

医学部倫理委員会委員長
医薬品等臨床研究審査委員会委員長

香川大学医学部附属病院では、診療に伴って取得した患者さんの貴重な個人情報を含む記録や尿・血液等の検査試料、生検組織(内視鏡検査で検査のために採取した組織等)又は摘出組織等の試料が発生します。

それら記録試料等を本院は、医療機関としてだけでなく、教育研究機関として所定の目的に利用させていただきたいと思っておりますので、患者さんのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

前向き研究(研究を立案、開始してから新たに生じる事象について調査する研究)に患者さんの情報を利用する場合は、書面により患者さんの同意をいただくことといたします。後向き研究(過去の事象について調査する研究)の場合は下記に示しております。

利用目的の中に同意しがたいものがある場合は、1階外来ロビー内個人情報相談窓口または各診療科までお申し出ください。特段のお申し出がない場合は、上記の利用目的のために患者さんの個人情報を利用することに対して同意が得られたものとさせていただきます。

掲示終了日	研究課題名	研究責任者(所属・氏名)
H25.07.31	日本人患者におけるメトレキサートの母集団薬物動態パラメータの構築のための後ろ向き観察研究	薬剤部 薬剤師 渡邊 政博
H25.07.31	簡易懸濁法施行時における配合変化情報の提供のためのデータベース構築を目的とした後ろ向き観察研究	薬剤部 薬剤師 渡邊 政博
H26.12.31	非小細胞肺癌・高悪性度腺の予後に関する研究	呼吸器・乳腺内分泌外科 助教 奥田 昌也
H26.12.31	ステロイド早期減量プロトコルの移植後骨粗鬆症への有効性に関する研究	循環器・腎臓・脳卒中内科 病院助教 西岡 聡
H26.12.31	正常高値アルブミン尿を有する高血圧合併腎移植ドナーの安全性に関する研究	循環器・腎臓・脳卒中内科 助教 祖父 江理
H26.12.31	腎移植後再発IgA 腎症リスク因子に関する検討	循環器・腎臓・脳卒中内科 助教 祖父 江理
H27.03.31	多施設間の統合退院サマリーデータベースの構築	医療情報部 教授 横井 英人
H29.03.31	がん治療における口腔合併症の観察研究	歯・顎・口腔外科 助教 大林 由美子
H30.03.31	造血幹細胞移植患者の移植前後における身体機能と移植合併症、栄養状態との関係	リハビリテーション部 理学療法士 田中 勝一
H30.03.31	低用量rasburicase(RSB)による高リスク腫瘍崩壊症候群(TLS)の適切なコントロール方法の確立	内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科 教授 松永 卓也

イベントカレンダー H25.7月～9月 予定表

日時	時間	場所	名称及び内容	担当	連絡先
7/12 金	18:00～	臨床講義棟 1F	第3回 医農連携交流セミナー	先端医療 臨床検査医学	(087)891-2229
7/13 土	9:00～	島津製作所イベントホール (東京都千代田区)	第19回日本脳神経モニタリング学会	脳神経外科	(087)891-2207
7/16 火	18:00～	臨床研究棟4階 A会議室	第23回最新医学研究会(内分泌)	内分泌代謝・血液・ 免疫・呼吸器内科	(087)891-2145
7/19 金	14:00～16:00	病棟地下1階 患者図書室 オリーブの郷	がん患者サロン	がん診療相談支援室	(087)891-2473
8/17 土	10:00～17:00	医学部附属病院	手術体験セミナー	手術部	(087)891-2283
8/24 土	13:00～17:30	かがわ国際会議場	第4回四国地区治験推進連絡協議会	治験管理センター	(087)891-2345
9/14 土	9:20～16:30	アルファあなふきホール 小ホール棟5階 多目的大会議室(玉藻)	第11回 緩和医療に関する集中セミナーin香川	腫瘍センター	(087)891-2075

平成
26年度

看護職員募集

看護師・助産師
85名募集

受付期間
平成25年7月1日(月)～
平成26年1月14日(火)

試験日	応募締切日
7月20日 土	7月 9日 火
8月23日 金	8月13日 火
11月29日 金	11月19日 火
平成26年1月24日 金	平成26年1月14日 火

お問い合わせ先 087-891-2320(看護管理室)

編集委員会 (50音順)

石井(看護)、岩瀬(病棟)、
岡田(総務)、鬼村(医事)、
梶川(検査)、加藤(放射線)、
唐木(外来)、白神(麻酔)、
芳地(薬剤)、松本(看護)、
安友(管理)、横井(情報)、
〔委員長 千田病院長〕